

第45回衆議院議員選挙・連合推薦立候補予定者の紹介

近づきつつある天下分け目の第45回衆議院議員選挙。スズキ労連は連合の推薦を受け、かつ私達の運動方針に理解を示し、私達の代表として政治諸課題に取り組む次の立候補予定者を推薦し、今後の支援活動を取り組んで参ります。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

愛知県区



古本 伸一郎
(ふるもと しんいちろう)
愛知県第11区／民主党
現職2期(自動車総連組織内議員)
1965年生まれ 42歳

静岡県区 (1区、7区検討中)



津川 祥吾
(つがわ しょうご)
静岡県第2区／民主党
前職
1972年生まれ 35歳



小山 展弘
(こやま のぶひろ)
静岡県第3区／民主党
新人
1975年生まれ 31歳



田村 謙治
(たむら けんじ)
静岡県第4区／民主党
現職2期
1968年生まれ 39歳



細野 豪志
(ほその ごうし)
静岡県第5区／民主党
現職3期
1971年生まれ 36歳



渡辺 周
(わたなべ しゅう)
静岡県第6区／民主党
現職4期
1961年生まれ 46歳



斉藤 進
(さいとう すずむ)
静岡県第8区／民主党
新人
1970年生まれ 37歳

静岡県衆議院小選挙区 詳しくは県選挙管理委員会ホームページなどで確認して下さい。

区	市区町村
1区	静岡市葵区・静岡市駿河区
2区	島田市、焼津市、藤枝市、御前崎市(旧御前崎町)、牧之原市、岡部町、大井川町、吉田町、川根町、川根本町
3区	浜松市(旧春野町)、磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市(旧浜岡町)、菊川市、森町
4区	静岡市清水区、富士宮市、芝川町、富士川町、由比町
5区	三島市、富士市、御殿場市、裾野市、伊豆の国市(旧伊豆長岡町)、函南町、小山町
6区	沼津市、熱海市、伊東市、下田市、伊豆の国市(旧韭山町、旧大仁町)、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、清水町、長泉町
7区	浜松市浜北区、浜松市西区、浜松市北区、浜松市天竜区、浜松市南区の一部、浜松市中区の一部、湖西市、新居町
8区	浜松市中区、浜松市南区、浜松市東区



スズキ労連 今後の主な予定

「2008総合生活改善の取り組み」が始まります

- [2月] 1日(金) スズキ労連 第58回中央委員会 (スズキ労働会館)
- [3月] 13日(木) 拡大中央共闘会議 (スズキ労働会館)



「スズキ労連」機関誌に対するご意見・ご要望がございましたら編集部までお気軽にお寄せ下さい。

編集部 〒432-8062 浜松市南区増楽町20(スズキ労働会館内)
TEL.053-447-3079 FAX.053-440-2838
e-mail : mitsuda@suzuki-union.or.jp

◇スズキ労連ホームページ◇ <http://saw.gogo.tc/>
*スズキ労連活動状況(労連ブログ)・スズキ労連機関紙
新聞見パスワード…saw2007

【編集後記】今年一年、皆様には大変お世話になりました。来年こそは飛躍の年になりたいと思います。それでは皆さん良いお年を！(次長2)

「アクアト・岐阜」・「ラグーナ蒲郡」割引券は
労連HP Topページよりプリントアウトできます！
パスワード:saw2007



2007年12月 第307号



スズキ労連

2007年
12月号

静岡県浜松市南区増楽町20
電話(053)447-3079
スズキ関連労働組合連合会
発行人 加藤 幸博
編集人 光田 玄

2007年労働諸条件の取り組み 各単組にて要求・要望書を提出

“12月末の回答にむけ交渉スタート”



労連内でも先行して取り組みを進めているスズキ労働組合。11月12日(月)に会社側より2008年間カレンダーの回答が提示され、職場へ妥結提案された。写真は会社側から回答を受け取る加藤委員長(右)。

スズキ労連加盟組合はスズキ労連の「2007年労働諸条件改善の取り組み方針」に基づき、部品・輸送部門、販売部門に併せた形で各単組の取り組みを決定し、要求・要望書を提出しました。11月7日(水)のスズキ労働組合を皮切りに各単組にて第1回目の交渉を済ませ、会社側への趣旨説明を行いました。今後必要に応じて交渉を進め、各単組は、年内の回答引き出しに向け粘り強く交渉を行ないます。

単組別要求・要望項目一覧

組合名	要求書										要望項目					
	総労働時間短縮の取り組み		働き方				各単組取り組み				各単組取り組み					
	所定労働時間短縮の取り組み	所定外の取り組み	短時間勤務制度の導入	海外における働き方	2輪部門における働き方	販売部門における働き方	60歳以降の再雇用制度について	嘱託社員・準社員の労働条件改善	福利厚生・職場環境改善	書記局貸与協定の締結	裁判員制度施行に向けた対応について	時間管理に関する確認	60歳以降の就労について	間接部門の協議、確認	福利厚生・職場環境改善	等級制度と退職金の見直し
スズキ																
平岡ボデー	○	○	○													
スズキ部品浜松	○	○	○													
スズキ輸送梱包	○	○	○													
ヘルソニカ	○	○	○													
スズキ精密工業	○	○	○													
スズキ部品秋田	○	○	○													
スニック	○	○	○													
小楠金属・熱処理	○	○	○													
エステック	○	○	○													
スズキ部品富山	○	○	○													
浜松パイプ	○	○	○													
遠州精工	○	○	○													
スズキ販労	○	○	○													

※岐阜スズキ・スズキ新潟販売は現在検討中。

△1: 要求内容に盛り込み



自動車関係諸税の軽減・簡素化実現「決起集会」を開催!



自動車総連は11月21日(金)、東京・憲政記念館に於いて、「自動車関係諸税の軽減・簡素化実現」「道路特定財源の一般財源化反対」決起集会を開催し、スズキ労連から加藤会長をはじめ10名が参加いたしました。集会には、17名の「車と社会を考える政策フォーラム」議員も参加し、集会に参加した500名を超える組合員とともに、「決起案」を満場の拍手で採択しました。自動車関係諸税や道路特定財源を取り巻く情勢は、現在、最大のヤマ場を迎えております。スズキ労連は自動車総連との連携のもと、目指す政策実現に向け、全力を挙げて取り組んで参ります。

決起集会「決起案」

- 複雑かつ過重な現在の自動車関係諸税を軽減・簡素化すること
- 道路特定財源の一般財源化は絶対反対であり、道路整備に充当されないのであれば、暫定税率の引き下げや廃止等を通じて、納税者である自動車ユーザーの負担を軽減すること



政策・制度課題改善の取り組み スズキ労連政策制度討論集會を開催



総勢104名が参加した今年の討論集會。浜松市議会議員や民主党静岡県各総支部長も参加し、課題認識の共有化を図った。

11月11日(日)、スズキ労働会館にて「スズキ労連 政策制度討論集會」を開催いたしました。政策制度討論集會は年に一度開催され、労使の協議では解決できない、法、税制、社会保障、年金といった諸課題について学び、将来にわたる公平公正な政策制度を考え、国などに提言していくために実施しています。今回は「少子高齢化社会における税制について」「道路交通政策のあり方」「自動車産業としてのエネルギーの確保と有効活用について」の3テーマを題目とした政策制度討論集會を開催し、全国の加盟単組役員、また浜松市議会議員や静岡県の民主党地区総支部長も含め総勢104名が参加いたしました。全体説明と問題提起が行われたあと、3テーマごとに分科会が実施されました。事前勉強、そして各分科会では自動車総連説明員からポイントを



古川事務局長より問題提起が行なわれ、その後分科会に分かれて個別テーマについて討論した。

絞った説明もあり、参加者はテーマごとの課題に対する認識をより深めることができました。また自動車総連より、いよいよ正念場を迎えた道路特定財源一般財源化問題について、現在の取り巻く情勢を中心に説明がありました。道路整備目的以外の特定財源の用途はユーザーの納得しうるものではなく、道路歳出を上回る税収があるならば高い暫定税率を本則税率に戻すべきという総連見解が改めて示されました。

浜松市議会議員・
民主党静岡県
各総支部長にも
討議に参加
いただきました。



浜松市議会議員 びつめやすのりさん
浜松市議会議員 袴田修司さん
民主党静岡県 第8区総支部長 斉藤進さん
民主党静岡県 第3区総支部長 小山のぶひろさん

《各分科会のまとめ》

*副座長によるレポート抜粋



第I分科会 【少子高齢化社会における税制について】
座長：根木中執 副座長：宮田中執 自動車総連：春田部長
欧米諸国に比べ立ち遅れる少子化対策、若年層で増加する非正規労働者対策、雇用形態・企業規模による収入格差の拡大～格差社会対策が強く求められる。ただし、それに伴い増大する社会保障関係費は、受益と負担という表裏一体の関係からも国民としての負担が必要になると考えるが、現状では拙速に受け容れるべきではないとする自動車総連の考え方に同意する。消費税については少子高齢化の進展、情報化社会、国際化等で今後税体系の見直しが見られる中で中核として消費税の税率見直しが浮上してくると考える。自動車総連の言う「将来の社会保障財源」として有力候補との考え方にも同意できる。総論としては、現行消費税制の持つ課題（問題点）が是正されるならば、「消費税」そのものは税負担の悪影響は小さく、徹底した歳出削減と税金の無駄遣いを排除する事が大前提ではあるが、税率アップの議論には乗れるとの方向性でまとまった。



第II分科会 【道路交通政策のあり方】
座長：池富中執 副座長：菅沼中執 自動車総連：杉浦部長
高速道路会社のあり方、計画路線設計の進め方等、道路整備を取り巻く環境は様々な変化している。渋滞しない道路を作る事で渋滞を解消することは、環境負荷の低減につながる事はもとより停滞時間削減による経済へのプラス効果も期待できることから、大きな投資が必要だとしても早急に対応すべきである。公共交通の利便性が地方になればなるほど低く車の利用度が高くなる。高齢者の人でも免許を返す事ができない。日本における少子高齢化の進展は高齢者比率の差こそあれ、日本全国の課題であり交通弱者の観点からすれば、地域・都市規模を問わない政策が必要である。中長期的視点から道路交通に関する諸施策に取り組む必要がある。そして、総合的な視点からの選択・組み合わせにより効果を発揮させていくものとして議論すべきである。最後に、「真に必要な道路」・「真に必要な交通手段とは何か」を皆で関心を持ち考えていく事を望む。



第III分科会 【自動車産業としてのエネルギーの確保と有効活用について】
座長：大石中執 副座長：小杉中執 自動車総連：村岡部長
ものづくり産業のエネルギーを考えた場合、石油燃料への依存度は現状よりは下げていく方向で考えていくべきである。石油から天然ガスへの移行を国策として行っていくことが重要である。資源が無い日本という国を考えた場合、今後、安定した生活ができるために、「国家レベル」「会社レベル」「家庭レベル」それぞれの立場で考え、行動することが必要である。自動車産業としてのエネルギーとしての石油資源の有効活用については、現状ではディーゼルエンジンと普及させていくのがベターであると考えられる。但し、課題として、イメージアップ、排出ガス性能向上への対応が不可欠である。分科会のまとめとして、自動車総連の考え方である「ディーゼルエンジンへの移行」、「バイオマス燃料のバランスのとれた導入」、「クリーンエネルギー車の普及に向けた積極的な対応」について概ね同意できる。

ナイスハート ふれあいスポーツ広場 湖西大会開催!



《参加者：総勢 474名》
障害児・者 140名 (8施設)
付添職員父母 107名
来賓・タレント 30名
組合 197名
湖西大会の応援団は落語家の「三遊亭好太郎」さん(左写真:右側)とタレントの「じくまるかよ」さん(左写真:左側)のお二人でした

障害者との“ふれあい”の場 スズキ労連から39名が参加

11月10日(土)、自動車総連静岡地協のナイスハートふれあいのスポーツ広場 湖西大会が開催されました。「ナイスハートふれあいのスポーツ広場」は自動車総連の20周年記念事業として、平成4年から財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金の協力を得て全国各地で開催されており、スポーツを通じてハンディキャップをもった方々と自動車産業に従事する組合員とがふれあいを深め、そういう中から「自立の心と思いやりの心」を育むことを目的としています。スズキ労連が毎年7月に行っています福祉カンパ金の一部はこのナイスハート基金への支援金として拠出されています。

スズキ労連からは39名の仲間が集まり、実行委員として用具準備や競技、応援等の各グループにわかれて参加。地域の障害者・児施設の入所者、保護者、先生方をご招待し、ナイスチーム・ハートチームに分かれ「ロープ送り」、「移動玉入れ」、「大玉ころがし」、「風船パレー」、「じゃんけんダンス」等の競技が行われました。実行委員の中には普段の運動不足がたり、サポート役で競技に参加しているはずが、逆に小さな子どもに手を引っ張られてしまうような場面(!?)も。参加者がどの競技でも真剣に、そして笑顔が絶やさず大いに楽しんでいる様子が印象的でした。みんなが一緒に汗を流した4時間弱。軽スポーツを通じて、障害のある人々との交流を計り相互の理解を深め合う文字通りの“ふれあい”の時間となりました。



39名のスズキ労連実行委員の皆さん。お疲れ様でした。

財団法人 国際障害者年記念 ナイスハート基金

ナイスハート基金は、国際障害者年の趣旨を踏まえ、次代を担う青少年の健全な育成と障害者とのふれあいを旨として諸事業を展開しています。なかでも「障害」をもった人々に対する偏見、差別の意識をもつのではなく人間として、共に遊び、共に学び、共に助け合える社会、即ち「完全参加と平等」の社会の実現に向けてナイスハートの輪を大きくする努力をしています。国内での事業の柱であります「ふれあいのスポーツ広場」「ふれあいの音楽広場」は、着実にその規模を拡大し、全国各地に定着し、積み上げて参りました。そして、2001年(平成13年度)より立ち上げました「アジアプロジェクト21」では、タイ障害児のために支援・交流を広げ更なる向上を目指していきます。その他、政府関係事業や啓発広報事業等、様々な活動を行い、国内外を通して、ナイスハートの輪を広げ様々な出会いをしていきたいと願っています。

財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金とは...

スズキ労連組織内議員 田口章は考える。



「おもしろいこともなき世をおもしろくへ」
「今より早くときはない」がモットーです。
浜松市議会議員 田口章

外国人集住都市会議 みのかも2007参加レポート

11月28日(水)、岐阜県美濃加茂市で「外国人集住都市会議 みのかも2007」が開催されました。全国23の都市から集まった参加者は約600人。浜松からは山崎副市長以下、担当部門や市議会議員4人が参加しました。外国人集住都市会議は、2001年、浜松市での開催からスタートしました。会員都市は当初の13都市から、この6年で23都市に拡大しています。現在、日本には208万人の外国人が住んでいます。日系ブラジル人を中心に定住化が進む中、言葉の問題をはじめ、地域コミュニティのあり方、社会保障制度、子女教育など、これまでの制度では対応できない課題が増えています。この会議は、こうした課題の最前線に立つ市町が集まって情報を交換し、国への要望などを行っているものです。共生社会づくりには「言葉」「心」「制度」の3つの壁があるとされますが、ある市長は「4つの壁は省庁だ」と指摘していました。国の対応については、私も9月議会で取り上げました。やすとも市長は答弁の中で「“外国人庁”のような組織が必要であり、設置を働きかけたい」と言っていました。まさにそうした組織横断型の国の体、あるいは担当大臣の設置が必要ではないか、と感じました。

- ＜主なテーマの特徴点、所感＞
- ①在留管理について
「外国人住民基本台帳」の作成が急務となっています。これを整備することによって、社会保障の加入促進や児童の就学管理(転校も含めて)もできるようになります。これは地域コミュニティづくりの基盤ですが、一地方自治体だけではできないため、国としての早急な対応が求められています。H21年度に外国人の在留管理制度の見直しが行われますが、それに合わせて実現できるように、さらなる働きかけが必要です。
 - ②企業の社会的責任の拡大
外国人労働者を雇用している企業の社会的責任を求める声が増えています。たとえば、社内における日本語教育や社会保障の加入などが期待されています。企業独自でできない場合は、商工会議所や国際交流協会などの連携も視野に入れてほしいとの声もありました。企業としては「納税で義務を果たしている」といいたいところですが、今後も外国人の労働力に依存せざるを得ない中、共生社会の一員としての役割を検討する必要があります。
 - ③教育体制づくり
大人を含めた日本語教育をはじめ、児童生徒へは“学習言語”としての日本語教育が求められています。高校進学率の向上や高等教育を受けるための進路指導も必要となっています。集住都市では、教師の加配やバイリンガル教師の育成、支援員の整備が急務となっています。今の外国人児童が、10年後にそうした力を身につけられるような教育が必要ではないでしょうか。

田口章のブログ 「創ろう! 元気な浜松」

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

浜松市政から身近な政治問題、プライベート(?)まで田口が気にしていること、考えていることがよく分かります。コメントも書き込みますので、皆さんのご意見をどしどしお寄せ下さい!



※「後援会だより」をpdfファイルにてダウンロード出来るようになりました。